

MERRY AROUND THE WORLD

23カ国、2万人の笑顔と出会う旅

[Vol.3 ロシア連邦/モスクワ編]

写真/水谷孝次 構成/立古和智

Merryにあふれた笑顔のポートレートを通じて世界に「Merry」を循環させる水谷孝次氏のライフワーク。
今回の舞台はロシア連邦の首都・モスクワ。奇しくも2004年9月のテロの渦中に撮影は行われた。



*Это общение с друзьями мои,
когда тебя любят все.*

公園でおばあちゃんと一緒にいたダウン症の少女です。カメラのフラッシュにたたらめアクションで反応するのが驚きました。この子は自分の中に「明と暗」を持っているのです。でも、この子の笑顔はとても美しかったですよ

光と影を抱える宿命は写真も人生も同じ Merryが必要な場所で生まれたMerryな瞬間

広告の仕事でヨーロッパ諸国を訪れる機会は何度もあったのだけれど、モスクワは共産圏だったということもあって行きそびれていました。日本人にはなじみがないので、一度訪れてみたかった。それがMerryの撮影場所を選んだ理由。多くの知り合いから「あそこはヤバイ」とか「マフィアには気をつける」と脅されて、ビビり気味にモスクワへ足を踏み入れたのです。

訪問したのは新学期がスタートする直前の2004年8月29日。この時期は毎年大きな博覧会があって、街が華やかな空気に包まれるのです。ところが、出発直前の8月24日にシベリア航空機2機が相次いで墜落し89人が死亡、8月31日にはモスクワの地下鉄で10人が死亡する自爆テロが起きた。さらに、9月1日には北オセチヤ共和国ベスラン市の中学校でチェチェン共和国独立派を中心とする多国籍武装集団によって、あの思わしい学校占拠事件が起きた。街はテロ一色の非常事態、当局によるチェックは異常に厳しく、とてもMerry

どこかの話ではありません。ところがモスクワの市民は驚くほど冷静で、「日本でも台風や地震はあるだろ、テロだって同じさ」などと言うのです。気丈なのか単に脳天気なのかはよくわかりませんが、とにかく僕はこんなときだからこそ「Merry」をやらなくちゃと思いました。確証はないけれど、天気は良いし、ステキな出会いに恵まれる予感がしたので。

案の定、撮影はうまくいきませんでした。酒飲んで大騒ぎしている若者、クレムリンでスケートボードをしている少年、Merryをやる僕の気持ちをしつかり受け止めてくれた彼らの笑顔は、それはもう言葉で言い表せないくらい美しかったですよ。印象に残ったのは、公園にいたおばあちゃんとダウン症の子を撮影したとき「いつも笑わないこの子が笑ってくれた」とおばあちゃんが本当に幸せそうに話してくれたことです。

モスクワはマフィアは多いしテロはあるし、歴史的に見てもつねに光と影が隣り合わせの街ですが、今回の撮影でロシアという土地が持つ潜在的な気品やたくましさ、華やかさ・底力を感じることができました。結局、学校占拠テロでは350人以上が犠牲になりました。平和な街も良いけれど、人はマイナスがあればあるほど強いプラスを発するもの。それは写真でいうところの光と影、人間の場合は生と死。その振り幅が大きければ大きいほど、強いエネルギーや喜びが生まれる。ロシアは政治的にも経済的にも混迷極まりないし、民族対立が発端のテロが頻発している。でも、こうした陰のある混沌とした土地でこそ、キラキラとしたアートが生まれてくるのではないのでしょうか。

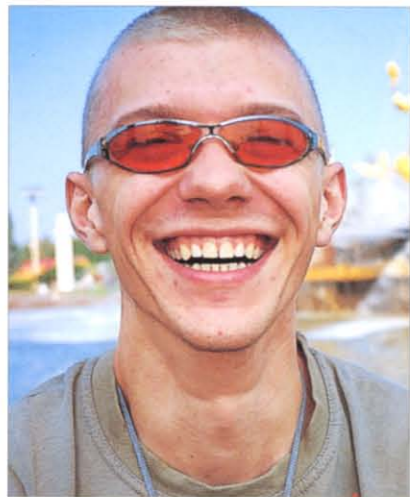
テロの最中で警戒をしつつ、恐怖で腰が重くなったクルーを激励しながらの撮影は、かなりハードでした。撮影中は「なんだろう」と何度も後悔したけれど、いまは「こんなときに撮影できて運が良かったなあ」と思っています。

(水谷孝次氏の談話を基に構成)



Намного на свете и друзей счастливее

公園で普段通りスケートボードをしていた少年です。彼の背後は閉鎖されたクレムリン。そしてこの公園も閉鎖されていたのですが、彼の笑顔とこの場面の対比が、作品の中に「明と暗」を生み出しています。そういった中からキラキラとした表現が生まれるのだと思います



Сложно, но весело.

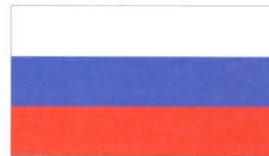
全ロシア展覧会場の噴水。民族友好の泉で陽気に酔っ払っていた若者です。ここは、ソ連時代の共和国の数だけの金の影像が集まったメリーな場所。当日は、長い冬を目前に控えた名残惜しい夏で、天気も良かったしリラックスしたメリーな空気に溢れていました

●水谷孝次(みずたにこうじ)

http://www.21merry.net/
http://www.remus.dti.ne.jp/mizutani/
アートディレクター。1999年より笑顔を撮影したポスターの展示やごみ拾いなどのコミュニケーションアートを通じて、世界に「Merry(しあわせ)」の輪を広げていく「Merry Project」を05年、愛・地球博にて「Merry Expo」を開催。



愛・地球博で展示された作品の集大成「MERRY EXPO BOOK」の表紙は、万博のため世界中から集められた使用済みダンボールをリユースした手製本。そのためすべてが世界に一冊の表紙。約300人の笑顔と1,000以上のメッセージを収録。これらの活動に対して、05デザイン・オブ・ザ・イヤー賞を受賞。



●ロシア連邦

首都:モスクワ
公用語はロシア語
人口:1億4378万2,338人(世界第7位/2004年次)
GDP:1兆2,870億ドル(世界第10位/2004年次)
通貨:ルーブル

滞在中は、赤の広場やクレムリンにはバトカーだらけでした。モスクワの教会も国もみんな喪に服していました。僕もこんなときにMerryに参加する人はいないだろうと思い、撮影を自粛しようかとも考えましたけれど、やっぱり撮影するべきだと思ひ、街の人たちに参加を呼びかけたら、なんと僕の考えとは逆に「こんなときにあなたが笑顔くれたことがMerry」という反応。Merryのメッセージも、テロではなくて身近なことや世界平和に対する願い、民族対立に関するものが多かった。モスクワっ子は総じてMerry Projectに対して協力的でした。

